

牧師室から(2020.8.16)

ある方から虹の写真が送られてきた。スマホに鮮明に写っている虹を見ながら幸せな気分になる。空に弧を描く虹の模様と七色は神秘的である。メルヘンの宝石箱のように、色ごとに数々の物語が込められているようなファンタジーがある。虹が現れると、子どもの時と変わらない気持ちで、首が痛くなるほど空に顔を向けて微笑んでいる自分がいる。日本でも、韓国でも、虹は七色である。しかし、その色の数は国によって異なるのを知って驚いたことがある。その例として、アメリカ、イギリスは六色、フランス、ドイツは五色、アフリカのあるところでは二色のところもある。七色にしか見えない私には、なぜそのように見えるのかが不思議である。虹色が多様性を意味するシンボルで使われることもある。

しかし、クリスチャンである私たちには、虹は別の特別な意味をもつ。誰もがすぐに思いつく物語がある。創世記には、神様が人間の悪があまりにも増していることをご覧になり、ノアの家族とノアの箱舟に入っていたもの以外の生き物は、洪水を以って全部滅ぼしてしまうところがある。しかし、その後、神様はノアに「…二度と洪水によって肉なるものがことごとく滅ぼされることはなく、洪水が起こって地を滅ぼすことも決してない。(創世記9:11)」とおっしゃった。そして、その契約のしるしとして、雲の上に虹を置いてくださったのだ。大水によって破壊され、廃虚になっていた無気味な世界の中で、空に丸く広がった色とりどりの虹は、ノアに大きな感動と希望を与えてくれたのに違いない。

全てが終わったように見えるそこでも私たちは神様が示してくださる虹を見る。それぞれ虹の中で変わらない神様の大きな愛を見ることができるのだ。

七色の虹、その色ごとに、神様への讃美と祈りを込めてみるのはいかがでしょうか。

(鈴木善姫牧師)